

目標達成計画

作成日: 令和 6年 2月 24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容
1	7 21 36 37	入居者一人ひとりの状態や状況に合わせた生活が送れるように日々心がけている。しかし、認知症の進行により、他者との交流の場で、入居者からの発信が少なくなっている。引き続き、入居者への話題の提供、交流のための支援を工夫し、入居者一人ひとりが孤独を感じず、安心できるような声かけや関わりを行っていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 人として、「生活者」としての尊厳が尊重される支援を行う。 入居者が自分から思いを発信できるような雰囲気づくりや声かけを行う。 入居者一人ひとりに対して、適切な声のかけ方、関わり方を行うことができる。 必要時は職員が間に入り、他者と楽しく交流できるような時間、機会を増やす。 入居者にとって楽しい会話、話題を提供できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体調に合わせて食堂で過ごす時間を作る。居室で過ごす時間が多い入居者にはこまめに訪室して、声かけを行う。 職員の会話力、汲み取り力、アセスメント力のさらなるスキルアップを図る。 それぞれの入居者が理解できるような声かけを行う。また言葉以外の身振り手振りなどのジェスチャーやイラストなどを用いて、コミュニケーション方法を工夫する。 声かけのタイミングや適切な言葉、環境を考え、入居者が安心して過ごすことができるように、また自分の思いを表現できるように工夫する。 ケア記録など、入居者の状況や様子を職員間で共有できるようなわかりやすい記録の書き方を工夫する。
2	13 26 28 31	入居者一人ひとりが安心して暮らすことができるように、入居者の状態の変化に気づき、職員全体での情報の共有、支援方法等を統一し、支援するよう努めている。しかし、認知症以外の併発している疾患により状態の変化が激しいときがある。既存の情報共有方法や支援方法だけではなく、その時々合わせた柔軟な支援方法等を多機能化することで、さらなる入居者の生活がより良くなるようにしていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の小さな状態の変化にも素早く気づくことができる。 情報を共有する方法や支援方法を統一し、支援することができる。 モニタリングやアセスメントの状況について意見を出し合うことができる。 職員一人ひとりがさらなる知識を身につけ、チーム力を向上させる。 必要時は既存の方法に捉われない柔軟な方法を見つけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の小さな状態の変化に素早く気づき、ケア記録などに詳細でわかりやすい様子を記録し情報共有をする。 職員の洞察力や会話力、汲み取り力、アセスメント力のさらなるスキルアップを図る。 介護職員も医学的知識を学び、入居者一人ひとりの認知症以外の疾患も理解する。 チームにでてきた課題は、迅速に話し合い解決する。 既存の情報共有、支援方法以外の有効的な方法を検討し、取り入れる
3	18 25 31 37 48	各入居者の「できること」に着目したアセスメントを行い、日々の生活の中で「できる力」を発揮できるような支援を心がけている。しかし、認知症の進行や併発している疾患により、身体機能の低下や理解力の低下、意思の疎通が難しくなってきた。継続して、各入居者の「できること、持っている力」に着目し、疾患の特徴等にも配慮した支援を行い、さらなる生活の「楽しみ」や「役割」、「充実感」に繋げていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 各入居者の病態の違いをしっかりと理解し対応できるようにする。 各入居者の「できる力」「できること」を把握するとともに、「～を支援したらできること」にも着目し、入居者の活動や「役割」を増やす。 入居者一人ひとりに対して、「楽しみ」や「充実感」に繋がるような声のかけ方、関わり方を行うことができる。 入居者の思いや状況、支援方法などの共通認識を持ち、統一した支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護職員も医学的知識を学び認知症以外の疾患も理解する。 意見交換ページや意向・要望シートを活用し、職員間で情報を共有する。 各入居者の「できること」に着目した活動を見つけ、やり方の工夫をし、共有できる。 個別でも取り組める家事活動や余暇活動、運動、体操等、提供の仕方を考え、各入居者が楽しみながら、また参加したくなるような工夫をする。 声のかけ方、関わり方を工夫する(ポジティブな言葉を使用する等)。

目標達成に
要する期間

12ヶ月

12ヶ月

12ヶ月